

3.11 東日本大震災の 教訓から学ぶ

市は2月12日、東日本復興支援『多久市防災講演会』を中央公民館で開きました。参加者からは、「防災について家族と話したい」、「地域での防災対策が重要」と防災・減災に向けた前向きな意見が数多く寄せられました。

講演会は、『東日本大震災の教訓から学ぶ、自助・共助のまちづくり』をテーマに開催され、地域の自主防災組織や、消防団員、地域住民など350人が参加しました。東日本大震災で壊滅的被害を受けた、宮城県南三陸町の三浦清隆復興企画課長の特別講演に始まり、山犬原自主防災会から自主防災組織の活動報告と国土交通省武雄河川事務所から地域防災マップ作りのアドバイスが行われました。

講演終了後、来場者は、非常食の試食コーナーで試食。また地域防災マップ作り支援ブースに立ち寄り、改めて地域防災のあり方を考える機会となりました。

▲非常食の試食コーナー

特別講演&自主防災組織の活動報告

南三陸町の三浦清隆さんの講演では、東日本大震災による教訓を基に、自助・共助の大切さや災害への備えなど、自らの経験を踏まえた助言がされ、今後の防災行政に関しては、「人的被害をゼロにして、経済的損失を最小限に食い止める減災の考え方が求められる」と施設防災の限界に触れられ、地域防災の在り方について提言されました。



佐賀県地域防災リーダーとして活躍されている野口義光さんから、山犬原自主防災会の活動内容が紹介され、「自らの命は自らで守る」ことの重要性和地域の支え合いの大切さを報告されました。



今回、会場の募金箱で集まった義援金 61,115 円は南三陸町へ届けました。

市長コラム

温|故|創|新|

Message for citizen

大震災から一年。 防災と減災を高めたい

市長 横尾俊彦

もう一年になります。大震災が襲ったのは昨年三月十一日午後二時四十六分。その日のことを鮮明に記憶しているのは私だけではないでしょう。史上最大震度で生じた大津波は穏やかな光景も人々も奪いました。さらに原発事故はいまも被害を生み出しています。改めて犠牲になった方々のご冥福を祈るとともに、避難生活に苦勞なされている方々にお見舞いを申し上げます。

防災講演会で南三陸町の三浦課長は「これから、人命喪失ゼロ、経済的損失を最小限にをめざすべき」と減災の重要性を説かれました。

防災教育も大切です。小中学生が無事避難した『釜石の奇跡』は片田群馬大学院教授の指導の賜物です。教えても動かぬ大人に限界を感じ、子供達に注目され「十年後は大人、さらに十年後は親になる彼らが防災の要に」の信念があります。

様々な教訓を未来に活かさねばなりません。

他方、原発事故は収束しきれていません。廃炉にするにも、最終的には高濃度放射性廃棄物の問題があります。いかに最終処分するかは人類の課題ですが未確定で、その影響は十万年後まで及ぶともいわれ、世界の英知を結集した対策が急務です。日本が脱原発しても世界には多くの原発建設計画の情報があり、懸念は絶えません。

震災は「有難い」ことも教えました。平穏で平凡な日々が貴重であると改めて知らされました。日々の支えを受けていることに感謝し、各々にできる貢献を重ね、未来への絆にしたいものです。